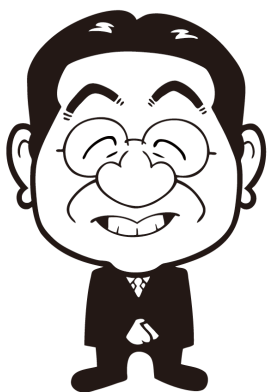


## 側溝清掃、コンクリート蓋の開閉は事業者が …これまでの検討に時間かかり過ぎの声も…

9月議会の本会議一般質問では、生活に密着した「側溝清掃」を取り上げました。

平成17年7月の合併以来、今日まで生活道路の側溝幅30cm以下の清掃は、い

つの間にやら全市域で側溝清掃は地域住民が実施することとされてきました。15メートル間隔ぐらいに重いコンクリートの蓋からグレーチングに取り換えてはいるものの、グレーチング(網目の鋼



鉄)は1枚6000円以上で、コンクリートに比べ5倍にもなり、全体延長を考えると、容易に取換えが進みません。

そこで、従来どおり地域コミュニティの一環として、ようやく来年度から

① コンクリート蓋の開け閉めを、事業者に委託することとし、

ヘドロなどの堆積厚に基準を設け

② 必要な時には市が浚渫清掃する等を検討している、との答弁を引き出しました。

しかしながら、予算の規模やどの地域にいつ対処するのかは不透明で、引き続き実施・運用を監視して参ります。

## 流域下水道 供用開始1年延期でどうする？ 住民説明

9月議会で今年度初めての新川西部流域下水道対策特別委員会が開催され、地下水が想定を超えて噴出し、その対策工事の為、供用開始が1年遅れることとなり、当初の平成24年度から平成25年度にずれ込むことが報告されました。

一方、住民にとっては①受益者負担金 ②工事費 ③上水道に対しての下水道料金負担比率がいくらか等が今後の接続率にも影響を与える為、これが事業継続にも懸念を及ぼす大きな問題だと考えており、早期に住民に報告するよう求めています。



西枇杷島町芳野公園の一角でも管渠敷設中



流域下水道終末処理場の現在の工事進捗状況



\*\*\*\*\*  
**防災対策 こんな対応で大丈夫か？**  
 \*\*\*\*\*

## 地域の自主防災リーダーは誰？

◇ あなたの町内会に自主防災活動の十分なノウハウを理解している防災面でのリーダーは誰でしょうか？

また、何人いるのでしょうか？

◇ 平時からの減災対策が重要で、その防災活動を理解し、日頃からのような対策の実現を目指して、どう行動しているのでしょうか？

清須市の現況にあった独自の防災リーダー育成研修の必要性を提案しましたが、NPO団体が行う研修で十分だとの答弁でした。

しかし、NPO団体の研修参加者からは、岡崎市や名古屋市などに研修に出かけることや土・日に何週間かに分けて研修を行うことから、全日程に参加出来る条件を満たす人は極めて少ないと聞き及んでいます。

防災リーダー不要と思っているのでしょうか？

## 災害時要援護者支援プランに疑問～個人情報取扱いで

◇ 個人情報の取扱規定が防災での対策を不十分なまま放置しているとの観点から個人情報保護条例では、本人が申し出た人だけを対象としていますが、実際には何らかの事情で地縁が薄く、申請すらできない人達が多いのが現実です。

現在、清須市は、こうした人たちには手を差し伸べない制度を採用しています。

答弁では「災害時には様々な困難が予想されるが、災害時要援護者プランを確実に実行することが重要だ」とし、今後もコミュニティの活性化に努めるとしていますが、その地域力に疑問が残ります。

災害時に援護を必要とする人の日頃の実情把握が重要で、それに必要な活動ができる「個人情報の取扱い」とすべきだと求めましたが、当局は現状維持の方針です。  
被災者にどう言い訳するのでしょうか？

後記)

右の写真が、側溝のコンクリート蓋等を上げるのに使われる道具で、その蓋は40kg以上あります。

高齢者や女性からは、これを見ただけで「難しそう」「重そう」という声が聞こえてきそうですが・・・。

やっとなら側溝の蓋上げなどの経費を市が負担するといいますが、どうして生活に密着したことにすぐ対応できないのか、行政運営自体に疑問が残ります。

引き続き「側溝清掃」は住民に清掃の協力をお願いする訳ですが、一部の人が負担を背負うことにならないようにする地域の知恵が大切です。



↑ 多くの人から清須市が行う防災訓練の方法に対して手厳しい評価を伺っています。  
 地域の防災リーダーや要援護者を支援する民生委員をはじめとする人たちから「冷たい行政」と指摘される状況が改善されていません。